

平成 30 年度 学校関係者評価実施報告書

学校番号	40	学 校 名	静岡県立科学技術高等学校	記 載 者	高橋 昌利
------	----	-------	--------------	-------	-------

本年度の取組（重点目標はゴシック体で記載）

	取組目標	成果目標	自己 評価	関係者 評 価	意見
ア	日常の学習習慣 を定着させる。	・授業に主体的に取り組んでいると答える生徒80%以上 ・授業の内容がよく分かると回答する生徒80%以上	A	A	授業を実施する教員に対する評価が高いことが素晴らしい。
		・1日の学習時間が10時間達成70%以上	B	B	カリキュラムのスリム化を実施するためには、家庭学習の充実が必要。
		・教養力テストの実施15回以上	A	A	回数とテスト結果を目標とした方が良い。教員の負担軽減の工夫が必要。
		・貸し出し冊数の増加 ・図書館来館者数延べ8,000人以上	A	A	専門書だけではなく幅広い分野の読書をして欲しい。
	個々の生徒のニーズに対応した 進路指導体制を 確立する。	・自分の将来に対する夢や希望を持っていると答える生徒70%以上	B	B	学年が上がる毎に率が高くなり、最終学年で目標を達成したことは評価できる。
		・信頼できる先生がいると答える生徒80%以上	B	B	教員に対する信頼が高くなることで、様々な指導が効果的になる。
		・国公立大学合格者60人以上	A	A	生徒が志望する大学に進学できるように、指導を継続して欲しい。
		・就職内定率100%	A	A	地元の優良企業に対する理解も深めて欲しい。
イ	部活動を効率的に実施する。	・部活動に参加している生徒80%以上 ・学校が楽しいと答える生徒90%以上	B	B	部活動は教員との良好な関係を築く上で重要だが、一方で教員の負担軽減という課題がある。
	探究的な教育活動を推進する。	・大学等と連携し、全学科で実施	A	A	大学との連携と共に、授業での探求的な教育方法の追究も必要。
	専門分野の能力を向上させる。	・全国大会出場、全国規模のコンクール等の入賞	A	A	各学科の特色色を活かした高い成果が出ている。
		・高度資格の受験者数及び合格者数の増加	A	A	生徒の努力と教員の適切な指導の成果であり、進路選択の幅が広がる。

様式第5号

	取組目標	成果目標	自己 評価	関係者 評 価	意見
ウ	グローバル化への対応と国際理解教育を推進する。	・充実した海外研修ができたと答える生徒 90%以上	A	A	海外に進出した日系企業を訪問し状況を直接聴くことは貴重な経験。
		・英語検定等の受験者数の増加	B	B	今後大学入試では、英語の扱いが大きく変化する。学校現場の対応は難しい面がある。
		・海外姉妹校との交流の実施	A	A	同世代の外国人と直接交流することは、貴重な経験となる。
		・海外修学旅行について研究する。	B	B	渡航先の治安等も考慮し、海外で何を研修するかを明確にする必要がある。
	持続可能な社会の一員としての素養を育成する。	・挨拶がしっかりとできていると答える生徒95%以上 ・身だしなみがしっかりとできていると答える生徒 95%以上	B	B	訪問すると気持ちの良い元気な挨拶をしてくれる。継続して欲しい。
		・インターンシップ等に参加した生徒の満足度 80%以上	A	A	現在の高校生には社会の一員であるという観点での教育活動が求められている。離職の防止の観点からも継続して欲しい。
		・3 Sに取り組んでいると答える生徒 90%以上	B	B	資源、環境の観点からも、引き続き啓発に取り組んで欲しい。
		・交通ルールの遵守に心掛けていると答える生徒 95%以上	B	B	自転車通学者の多い市内高校では、交通安全への啓発が重要。

様式第 5 号

	取組目標	成果目標	自己 評価	関係者 評 価	意見
エ	カリキュラム・ マネジメントを 推進する。	・移行措置等を踏まえ、教育課程 を変更する。	B	B	新課程では教科書の記述量が 増加しており、授業を如何に探求 的に行うかが重要。
	特別支援教育体 制を確立する。	・教育相談だよりを月 1 回以上発 行	A	A	ストレス解消法やストレスと の付き合い方を助言して欲し い。
		・1 年生全員を対象にしたカウ ンセリングを実施	A	A	生徒には担任や顧問でも見え ない部分がある。相談員による カウンセリングは、生徒の安心 感につながる。
	教職員の資質・ 能力の向上を支 援する。	・研修の成果を授業改善や学校運 営に役立てた教員 90%以上	B	B	研修内容が具体的な教育活動 の形になるには時間がかかる。 業務多忙の中、新たな取組みは 難しいのではないかな。
		・日常的に授業で ICT 機器を活用 した教員 60%以上	B	B	ICT 機器活用の先進的な事例や 活用の必然性について探る必 要がある。
	教職員のメンタ ルヘルスの増進 及びコンプライ アンスの徹底を 図る。	・メンタルヘルス及びコンプライ アンスに関する研修の実施 1 回 以上	A	A	業務多忙の中、メンタルケアは 重要。一層の充実を図る必要が ある。コンプライアンスやハラ スメントに関する研修も必要。
	学校教育活動に 関する広報を充 実する。	・学校ホームページを週 4 回以上 更新	B	B	担当する教員の負担は大きい と思うが、学校から情報を発信 する重要なツール。
		・学校外でのイベントを各学科で 2 回以上実施	B	B	小中学生に理系への興味を持 たせる有意義な取組み。継続し て欲しい。
	校務の円滑、か つ適切な実施を 推進する。	・全員の職員が校務で共有サーバ ーを使用する。	A	A	情報共有と効率化のために有 効だが、情報漏洩には細心の注 意が必要。
		・点検の日を設け、P F I 担当者 との点検月 1 回以上実施	B	B	生徒の安全のため継続した点 検が重要。
		・コスト意識を醸成し、消費電力 量を 5 %以上削減	C	C	猛暑の中、エアコンの使用制限 は生徒と教職員の体調管理を 考慮したうえで実施すべき。